学校番号	T0106

平成 31 年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	改訂　新数学Ⅰ（東京書籍）						
副教材等	教科書の内容に関連した別教材						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学までで学習した内容を確認し，それを基に数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深めます。第１回授業時にファイルを配布します。授業プリントや問題プリントを整理し，各自復習等に用いましょう。授業プリントで学習した内容を問題プリントで確認し、知識の定着を図ります。問題プリントは実施ごとに回収し，評価の対象とします。毎回しっかりと取り組みましょう。授業への取り組み状況も評価の対象となります。遅刻や欠課をせずに，しっかりと出席しましょう。

2　学習の到達目標

・数と式、二次関数の基礎的な知識や技能を習得する。
・様々な事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにする。
・数学を問題の解決に活用する態度を身につける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	授業の内容に対して興味をもち、意欲を持って演習や課題に取り組むことができる。また、習得した数学的な知識や考え方を様々な問題を解決する道具として数学を活用しようとする態度をもっている。	方程式や関数、グラフなど、数学の授業で得た知識や考え方を様々な問題を解決する道具として活用することができる。	計算をすることやグラフを描くことなど、問題を解決する道具として数学を活用するために必要な計算力や表現力、処理能力を身につけている。	授業で扱う数学的な記号や式、グラフの定義、計算の方法などの基本的な数学の仕組みを理解している。
評価方法	提出物、授業態度、出席状況、定期考査等	提出物、授業態度、定期考査	提出物、授業態度、定期考査	提出物、授業態度、定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	数と式の計算	計算の基本	○		○		a: 具体的な事象の考察に式の展開や因数分解などを活用しようとしている。 b: 一つの文字に着目したり，一つの文字に置き換えたりするなどして，いろいろな式の見方をすることや，目的に応じて，的確に式を変形する方法を考察することができる。 c: 式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うこと，そして，乗法公式や因数分解の公式などを用いて，式を目的に応じて変形することができる。 d: 乗法公式及び因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単な式に帰着できることを理解している。	出席状況、授業態度、問題プリント定期考査
		文字を使った式		○	○			
		単項式と多項式		○		○		
		整式の加法・減法			○	○		
		整式の乗法	○		○			
		乗法公式		○	○	○		
		因数分解(1)	○	○	○		a:数の体系を拡張する過程や数の四則計算に関心をもち，それらを数の考察に活用しようとしている。b:数を拡張してきた過程や数の四則計算の可能性について考察することができる。 c:簡単な無理数についての四則計算ができる。 d:数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と１対１に対応していることを理解している。	
		因数分解(2)		○	○	○		
		根号を含む式の計算		○	○			
		実数	○	○		○		
	1次不等式	1次方程式		○		○	a: 数量の関係を不等式で表すことのよさを捉え，それらを具体的な事象の考察に活用しようとしている。	出席状況、授業態度、問題プリント定期考査

	不等式	不等式	○	○		○	b: １次方程式や１次不等式の解について，いろいろな数値を代入したりして考察することができる。また，不等式の性質を等式の性質と対比して捉え，１次不等式の解き方を考察することができる。 c: 数量の関係を１次方程式や１次不等式で表したり，等式，不等式の性質を基に，１次方程式や１次不等式を解くことができる。 d: 方程式や不等式の中に含まれている文字の意味や方程式，不等式の性質及び１次方程式，１次不等式とその解の意味を理解し，解を求めるための基礎的な知識を身に付けている。	出席状況、授業態度、問題プリント定期考査
	不等式の性質	不等式の性質		○	○			出席状況、授業態度、問題プリント定期考査
後期	２次関数のグラフ	関数	○	○			a:表や式，グラフなどを用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、関数の考えを具体的な事象の考察に活用しようとしている。 b:1次関数と2次関数のグラフについて，いろいろな値を代入したりして考察することができる。 c:1次関数と2次関数のグラフをかくことができる。また、2次関数の式を平方完成することができる。d:1次関数・2次関数の式の意味やグラフ，平行移動について理解している。	出席状況 授業態度 授業プリント 定期考査
		１次関数のグラフ	○	○	○			
		2次関数のグラフ	○		○	○		

	2次関数の値の変化	2次関数の最大値、最小値	○	○	○	○	a:2次関数の最大値，最小値を求めることの有用性を認識し，それを具体的な事象の考察に活用しようとしている。 b:2次関数の値の変化や最大値，最小値について，グラフを用いて考察することができる。 c:2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 d:2次関数の最大値や最小値について理解している。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b: 数学的な見方や考え方
c:数学的な技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することになるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。